鳩谷三志前勸善錄

學手縣立一關中學校

日仁舎
2142
2

2142
2

大阪府立二関中學校

勧善録巻之中

目録

一 常陸国土浦郡新井村孝民之助が事
二 同郡塙郡村孝右衛門が事
三 同国鹿嶋郡小陸原村の孫左衛門つぎ子孝右ゑ門
四 同不忠之儒が拾よりやぐ事
五 同不の湯屋善兵衛が事
六 同郡羽黒村孝右衛門妻か孫ゑ事
七 同郡仏沼の里孝行孫屋源兵衛が妻せよぐ
八 下総国おゐる郡岡村孝林三郎和田村孝次郎つ

文閣文庫

義を常に三九郎つたなどが若業さを忘れぬ男のこと

九 同国豊田郡吉沢村の住義がこと

十 同国稲嶋郡恩名村代平義が事

十一 同国同郡桶戸村の三郎兵衛廉直代事

十二 同国桃子伊見根代吉右衛門

十三 同不版沼代さと女ごと

十四 同不今高の俗左弟が娘いねが事

十五 同不目出度町代次郎が娘まち代女弟婚代仁助ごと

十六 同不代山田屋万吉が妻母のこと

十七 同不荒井冨田屋町代吉右つがる次郎兵衛が事

十八 同不今高代仙蔵屋七三郎が妻まちごと

十九 同不小浜村の与兵衛が事

廿 同国吉沼城下代美名屋小兵衛が子吉左衛門

が事

廿一 同不の鞆商人銀蔵文助ごと

廿二 同不代佐井小兵衛が二人代娘途中にくるしめら

と或男ひくひくしてこと

廿三 同不の只利屋孝兵衛が娘まつごと

廿四 同不代和泉屋忠右衛つが下男下女代こと

廿五 同不の又兵衛が渡毒者忠代事

同所の日扶屋清左衛門が妻に成事

同所に小西屋平右衛門が妻幷姫まつ

甲斐国清坂峠に蕨屋に本村の中村屋長兵衛が事

同所に永沢村の長兵衛

駿河国沼津に宿の孝貞に男女皃幷芹沢子孫若すと教諭仕る

下総国猪鹿郡宿村に政右衛門が妻よしゑ

同国香取郡幷鹿右衛門が姫

同郡西代村に亦左衛門に父子並に長兵衛清助孫数次利平次郎七歳右衛門に若人のこと

同村に若男女に事

同郡幷鹿に吉ゑ幷が妻

同郡押砂村に七郎右衛門が下男伝兵衛

同村のりよ女がこと

同村に茶太郎がこと

同郡佐原の里に久保屋孟平幷が姫それが事

勧善録巻之中

東都　知非齋源與清文儒著

赤松知則
門人　関　常政　校

一　奥陸国志賀郡井村に義右ゑ子民之助八十九歳に若者之。家貧しけれバ人の奴となりて。父母つゝみもてかゝりそよつかへけり。民之助扶のこゝろ。父八年老たれバ己家にても。ゆくゝれにつけて不足なる扶ひ給へべし。我力を添まゐらせんとて。己が妻に親の飯をとゝのへ。げこなどゝ称もよく養ひ。聊のいとまに縄をなひ

行て。父れを家よりくりけり又父が厚恩をうけたり孫市といへるが家書清しけるをとりも伊れいとまよ縄なひれくりていとやう。人よつかつる多い人よまかせねば力をとゝへまゐ〜せんこともかなはじ。この縄をだよす志と見たまひてよといひけるよ。孫市もそれ志よ感しつゝにその縄を示して。これ民こ助が涙切れたまのたりとて。養ひなりとをん。

(二)同郡城家村れ熱蒸が子吉蔵ハ。孝心ふかれ志にていと多し〜ゆう〜中にも。茅屋ま〜うづをどつくまそれ代を以て父がぬ拍れ泊をとく〜めけりがく心つくせし故にや。今ハ乏しくしてたくてその子孫よりるまでみな孝行れ家なりとそ。

(三)同国麻嶋郡大陸原村の孫左衛つが子孝左ハ十三歳れ者之母ふさ懐妊せし〜ときを少父母よいとやう。胎教こそ胎内ようく教れば。良子生るとこゝを承さぶ〜ハ友ハ某も人と改て孝義しまゐ〜しべし。父母も若すをつとめて。良児をはたまひてもとつゝま。父母も理に代して涙を流し。これより行を正し。善すを心としけり。孝左も日来力をおしてのくれとつかへけりとをん。

四 同下総国の姫もやハ。崖ヨリづかゝ十三歳なれど。父母に孝ありて。年々収合のいとなきも母にまゝとおろさせびしてゆくれよんと引けり。又童ふれる物ハ。乃語の書かゝとゝひて。人馬代銭ゝゝとやくくせさせけりとなん。

五 同下富田屋町に湯屋吾義といふものあり。性質沐浴のゝとけこなりしゝ。孝志いと深かりけり。母眼病ゝとなりて医療ハ御もおたりしゝと。吾義三七日断食し。神仏に祈て。家産を利益とゝゝ。母の眼疾けりとなん。

六 同郡相馬村の善四郎が妻が孫。光母腰折て行歩なりゝ。ゝとよくゝ抱して孝養ゝとおこしけり。母さる廃人なれど。いと屈しゝなるとゝハ。拙山などよかれ頑へ行て願めけり。まゝ歩して目覚しゝたゝんとゝけゝんがたゝよ毎朝丑ごろまでハ。必火燒て起居せるよしいへり。それ男いとく孝志と感じ。村長れ網代平義にかたりけれバ。平義も大に感じてやがて地所よまゝして賞物遣せ。よくめぐみ給ふれみけりとなん。

七 同郡飯沼の里に彩屋源義が妻せよハ。ゝやく母に

却くれ。父はなぐまれてひとくなりしかど。いと柔和の性質にて。孝志深かりけり。妹人ありて富家の妻となれもいうせーと。敢てうけひかず。父は孝義せんとそのこれがへうさるをどよいと。義氏深義がりと妹ひるくへいうせよ深義が忠しをれんなるーー父知て。多くをとりてさびまとなり。貞義とまりりければ。夫もせよが父はつれんとをしてよくつかへけりとなん。

八 下総国お馬沢岡村の林義。和田村の中右衛。黄義。三右衛つなど。却ほく孝貞の友につまりて。義廣田を町九反だかりと呼ばけりその廣田に流田義田などいふ名あり。流田とハくどや記田にて。水多くあふれ。稲苗ふれ枯めは腐れにけるとつ。義田とハ土質よろしかるべ水もまくらあとりとなん。それ里の佐義。七郎左衛伊右衛つ。若義。角右衛つ。黄右衛つ。文右衛つ。利右衛つ。七郎つ。勇右衛つ。利右衛つ。市義。久義。治郎義。若右衛つなど。さく廣田はたりけるとと林義。中右衛つ。黄義。三右衛お。革田るよかと会せて。墾年記。今ハ良田となりて。年ごとに貢米とぐこそりなくまれりといへり。

九 同国豊田郡吉北村の宗義ハ。祖母母妹と。四人共に

農業よかりとなりし。或時妹眼病となりて。失明されれ
ば。摩耶も心よはせなりとなげき。岩義上蛇村に来が有る
れ奴隷となりて。それ給金をもらて摩耶をかへけり。こ
れの後剛目も金ければ妹を人れ許に嫁せけり。岩義
祖父れ代より借りたる借金ゆあばかりなるーぶ。たくよに
かりければ。ついでよ返さやとて。四年より九年までつ
かへて。それ給金を以て。遂よ借金を返済ーぶに
掛て殺れたる母をなどもも。御理ろひけり。九年人れ家
てつかへー間。美れつとめはて。来て母れ許を請
と怠なー。或時重いみじう。病もいとく来よけれ
ば。今宵ぐかりハとて。折外なりしぶ。ゆよかりて。いもね
られざりけれぶ。歎嘆れるころ。ひよ伝れでく母を請けり。
かく孝志深もむくいにや。九年れ百一日も病に外なる
ことなーといへり。

下 同国稲沼郡恩名村れ平義ぶ姫。ものかよ七歳なれど。
孝心いく深ーしたん

十 同国同郡横曽根新田捕元村よ三文兵衛とーすのあ
り。豊田郡水海元れ谷原武兵衛ぶ許に業稼を奉ける
が。日ごろぶーして業稼の直早くたうあ。或日三文兵衛南後
一片りて来て武兵衛よりーやー。業稼を奉ー付八三貫

なりしに。不日に畢價となりたれば。我貪れるうちせりとて。かの商賣をとかへしけるとよ。武兵衛いとく。壹貫文なり〳〵。こる畢拔得ハそれ時運によれることとなりとて。敢てうけひかゞしてかへしやりぬ。さて其余年ゐて又武兵衛ゞ許に來て。もとれる年に及て後世れ妨ともなべく却のべ。されば藥師の五價をまげてとりたまひねと。商賣ハ三斤をとゝ。そゞめ一斤なりしかども。年ごに利子をと積なれば。今ハ三斤まなれりとて武兵衛よりもとゝ。武兵衛も敢てうけひかゞしてかへしけり。三度兵衛かゝる廉直なれむくいなや。今ハ田畑も拔ちく賣

拔て。去かるべき農家とハ成ぬ。されば賣田れ初穂米お作と。年〳〵蓄るに拔くうていふやう。和尚ハかゝの四ゐなれバまゐ〳〵ゐる。今よりつとめて再び四と賣けどしまく。賣初まゞ賣ゐし時れ直より減ぜりとも四しまゐ〳〵べ一つとあなまく〳〵といさあけりとなん。

十二 同国桃子伊貝根れ老者とハ世よいだゝ老と字せられていみゞれ氣とれとなり。それ行教陽にて。嗤嘩に論をとゐを惡行たとへんかなし。明女れ妻之弟紀介りして。小谷之志ゞをしへるとせて。ていと若ゞよ

なりて孝行世これたにたれりといへり。

壹 同郡仮沢村さよ女といへるぱいみーじれ若ムまで孝貞れたこといへり。

壹 同郡今宮の儀左衛ぐ振いれ小貞若れたにて。夫に捨られれども再嫁こたすく父母に孝行とおーしけりとぞ。

壹 同郡今宮月出方町ま次兵衛といふものあり。姑とまれと いふ母たちくせとと云しかば父にそぐまれてひとたりぬ。まれ女十五歳の時より父次兵衛重病と姑ひ多年自出たまび。薬ものまてはられよ云しく心まーたらねば。まれさまぐに力とおーし。祖父衣類棺并までも賣

ひさげて。病療れ費用とせーかぐ。さらに若るーしたなー。かく貧苦よせまりて年月を経ることを歎れたいとんぐるるーく恭ひ。奪ものとーせんと肝者ぐ。かくる病家れ貧ものなれば。うけひくまるたなー。さるに大工仁助とて篤実れとものこはりー。歎ものれたーしーぐれよーいひ強らひて。やげた扞薬ければ。ものれよ恭ひたりてうけがひけり。嫁くかくこと父ものよ若ものるるよ。いとよろこびてやがて奪れとりぬ。仁助孝心あつく業よ力とあーしけるよやーくーまま衣食与て。ものーしたりめ。仁助人の許にやとされ一日銭の六ッ時より。暮の六ッ時までぬと

なるべ勧ければ。世を仁助なるべでくもてまやさるゆゑ。
他の工人りもまさりて。雇りんとはるる人おをかりけり。
かゝる篤実れ仁助をと奪にとりて家さかえ行もすと
雖も妃女が孝心れ殺よよれるなるべ。

同所今宮の山田屋吉右ゑ老母ハいと貧しきなり。
人と財産れ。いつもくよ七分の利をとるさせ。己ハ三分く
極し女。それゆの吉右ゑ為なるべ。母よく世をし立
ければ。いづれも貴人といへり。まさく人よりのくらはるよ。
己ハ喰物せしりのをとくのせび。大ゑ保にてるるもかびく
るおのれが制捨てよまれおだかりをあるへけりとなん。

同所長徳寺田屋町れ長兵衛ハ孝志深
れ者。指物工なれど。その暇ある日ハ。鼠をと捕なるべ
てかゝるべ業をと勤て。父母をと養ひけり。婦をれ不
嫌なるべ。ゆゑ人物てくべみるべ。ひけをと吾子をと
くいをとりみよく婦れんをとりけるをなん。

同所今宮れ仏壇屋七三郎が妻ハ貞実なるべ
なるべ。母を孝をとあるし。兄弟なるべ
しみ育けり。まもり不幸にてしやく多まりけるを
老母も七れ。いるべ。なげれかるべめるさまをなべてな
らべ。くもこれゆをとされて神をとるべけりけるを

なん。

九 同所小俣村れ与兵衛。老母よつかつて孝心深かりけり。八木村の無左衛門とつのぴよ一世結て孝けるよ。与兵衛もてなされて孝行ちぐ世ーおぐえたーと いくへけれぱ。せんひべたくてかへくんとせーぐそこにゐ 老母よろぐれすやぐふて向よ。老母こわくていぐく。 与兵衛が孝心。さまでひちるるもいれど。年来余が心よりくぐ。他所へ出るよ必之家別とつげ。我ハ一歩も他の家よ止宿ことなく。今年三十四歳ちれど。母れ心にかなるとあ妻めちぐんにハ悔とまかひちーとて。

人とえくびていまぐ鰐丈にて歩れとつ。無左衛門これを 世て泪とちげーー。涙よりかるれ心かちく感嘆ひ。乃 与兵衛よむかひて。汝ハいかちるんりて母虎よつかく たまふとちよ。答てつやう。おにんがけれるもちー。 父母れ法報恩を弱き。一歩も他所よ離て孝まぐ。 法心よりくるまぐ。とけを世ひしめてれていくけり とちすん。

十 同国吉田郡下れ横町よ茶屋小兵衛とつ茶あり。 それ子よ孝左衛門とて十四歳の孝行ち。孝左衛門孝 志ふかく。ちぐむかりも父母れ命よさかぐ。その母情妊

して舞くよれぞくるゆ。あとあるて祈仏よ行拝をしけり
これよりおもくび。行くれまきめくしに紀幸をして人よ称誉せ
られけりとなん。

㊀同西横町れ糀商くれ兎義ハ母と婦とてよくつかへて。
孝吹の心をつくしけり。婦不幸にして世をとハやくせ
後。人ありて妻をとむかへよとすれど。母のれんよりと
らんものむくたらんよハ嫁ともかひたくとてうけひ
かび。さるよ下谷国王生れ家よ忠孝のたちすぐでハま
よやどと孝ひしめたる女けり。かれ女よ兎義がうく
をとかたりけれバ。それ孝と感じ。いそ行業してよと

こふよ。やがて嫁してまゆまよしけりとなん。

㊁同西の伝拝屋小兵衛とふの始祖人もたり婦ハ母家。
妹ハナ七家にて。いづれも孝伝れ心ふかりけり。文化十三
年れ夏八月。大西風れ日ちりしぶ。四里はがり備れる
墨の伯母病危しとけて。婦妹とうあくび西風をしれど
て参もれけり。行木横たとうてをとふさだ西風
面をとむくべかぐざるれ。ころびつれをつして廿町バかり
行ゆみけりさるをとりしも後より一人れ男追つれて。
叫るむつかしれ日よ行るありてをけたまふとふ。三
人をぐぐといくけれバいくそれ志をとめぐ。我ハまあ

れ爲つかれ。茶とのんだめよ。古ほよりしかあさと。
夫たちれ弱きにて。今より三里隔れ所つかせたまハ
んことかなきまで。まげて家よりせたまへ。乃
ちるべきまゐせんとて。ひてゐて行て。病みたる
妻よりとかくりやうて馬引出て。つくり。婦は
ハいとつかれたまへけ。たれば馬はのりたまあ。
妹れハもとに引て。ゆくてんとて。まゐくしいろう
わしけて。かれ伯母のもとよりめ。伯母病中に二人は
垂て。かさみよ涙よくれけるなどかれわくこと男いづ
ちとも。ちらびさりてけり。二人の去賀藤とこひべかりし

のもとにくゆれどもかひなし。こハ二人が孝伝れんと天
祈めでさせたまひて。かるまめ男して何やふもとをひく
ハやてくまへくよこそ。

○同所よ利屋孝子伝あり。家こぞりて孝人
ちりけるがそれまちひて婢れまつとつて女。忠義のム
たぐひなすこいへり。

○同所れ和泉屋忠右衛つが家はつかつる侍。孝情ちつ女
とつ。二人れ男女ありぬ。いづれも忠義れ心よくるものな
し。忠右衛つ家こぞりて孝人なりけれバ。奴婢れ志を
めでゝとりく物たびて。それ父母ととゝ。つせけりとん。

孝 同所に又長男として善人なり。男子二人あり。兄を源太郎孝と称す。次郎といへり。妻世といやくせ。後妻まつよみとて二人ともむかつあり。或時熊次郎眼病をとりづらひて。医療れ術もあらはてしと。後母みよくくなげき。一七日間り食して祈仏ありけるゞそれとるーありてそなどなくいえけりとなん。二人れるゞか父母よくつかつて孝心をつくし。後母もまゞるのごとくかちーくせりといへり。

孝 同所に日野屋清兵衛ゞ妻八孝貞れいとふかくして。孫誉はごとふるまひ母をかりとなん。

孝 同所に小西屋平右衛門ゞ妻八みさをとたゞーれ貞ぬなり。長月れ未。病つもりていたくなりづらひけりそれ娘よまはとはあり。多ゝとあみ。新食れ絞して。祈仏はいけりけれどもるーなくく。母れ病ゝとあやみげこ母もせまありさつまゞくや母ぶえけんぞーくくゝ支れとと心すとちゞりてまはよ孝なちくん後ぶよく父よつかくて孝をとつくはべをうーこ云ゞーひりまはこれとせて父上れ出すハいかたもつかへまねくれべければ心ゆるせまつまゞ。さりとも祈仏の法加護なくてやハはるべれとと。ちゞかくんぞそくれたまはくん。母ゞーつよ

りてはこだゝせてさまゝとゝいひなぐさめつゝ濱よりれば
と母いとうれしくやはぞえけん。ほゝゑまめくしく
つかへまつるゝんよハ父はれ上もゐやひ。さてのあもひ
れこれことなりとていとよろこびてねぞるごとく息
たえけりまひいといかうなげきかなしみてとりくれる
ざごもハてゝ後もさまぐまに追福れ経営つくやりと
なん。

甲斐国仮坂峠れ禁後れ本村より中村屋敷を濱とて
七十家の翁あり西国巡礼せんといひけるを老人れ
途ハ心ものなり。吹れぜびとも和ハ若行ものゝ
内れ去いさめけれバさらバこの里れ仮坂峠ハ一里半余れ
坂まて。新糸ちれバ人馬絶ゆゝ。ひとりくハ怪我なとん
るも世ハかれいこの坂をとつくろひて往来れ者の難を
救ひんとて。遂ようろしもをつくりたりけるとぞ。

同所仮坂峠れ東麓に新ば村といふあり。そこハ若濱
とていと貧頁販者すくなゝ。新ばより峠まで二里後の
新糸をと己が身くれかせどの米を出して三年れ間ようつ
くろひとゝさめ。人馬れ往来やはかゝむ。又後の本村れ
者を濱ゞ坂をつくろとゝさむゝとゝも。今弐百せゞ二度
出して費用をとゝけようとなん。

廿 駿河国江はれ宿より小谷三志が孝貞れまちびれ
社中おかり。そが中又六家より十四又家より母ならび男
女四人。清兵屋清左衛門。伊勢屋忠三郎。江戸屋次郎右
衛門。元四屋乙次郎。虎屋栄松。酒屋文七。辻屋力蔵。秋
葉屋三郎。水金安次。和田与三郎。戸金屋喜次郎。武蔵屋要
助。茶屋徳次郎。清水屋とも。酒屋くま。江戸屋流。江戸屋
まん。新井屋ふじ。和泉屋てつ。飯田竹。江戸屋しま
女。杉田屋ゆき。女戸金屋こん。茶屋ちん。清屋けま。
宗金屋ゆき。茶屋ちよ。女。
して。人々ともにかくめみちびけり。また名れ

に竹澤ゆ種こい。茶屋ありて。それ孝を教て。忠孝
貞信の道をとくとなさしめ。孝志の児輩その門
ゆ出るものいくばくなかりしが。また元四屋伊右衛門。酒屋
弟八。ならびに二家の小児なれど。父母ゆくとくへ。さと
ければ。父ゆ草履なをしてとかける心すてやとん
ぞよんどすといひけりとなん。それ分世宿ゆ称誉し
べき孝貞忠信のさもがゆ出かりとそ。

世 下総国猪鼻郡粕村に政右衛門つが妻ゆ一人同郡生子
村の孝子。歯十六れ時政右衛門つが妻となりて祖父母父
母によく孝れんとおもひけり。夫酒とこのみ放逸れ

まひ世をかるをなげかせてさまざまにいさめけれども家だ
からもさらさらびず父母これをなげかせてようよう
ゐをのちたゞんよ悪つが所行よろしくなりもこ
そせめ今ち後神社仏閣はまゝでたゞんとりは必
ゐのゝんゐをとゐりてよくいひけるよりも涙と流
し丹誠をこゝろしてまれ子をゐのんすを
ゐ請けりそれをろちの兄弟にゐ谷三志が門に
入て放縦れ者あまたそ若人はなれるをゐんゝやこゝ
で支をとゐくめてこの志がをゝへゐよせやとゐひ
けりぬさるに政右衛つ三志がをゝへをとうけて右衛

門をよんをとよせバ直ちゐかゐべしよゝ二夜まで逗留ゐ見けり。
これよりて同郡宇賀村の伊右衛つが招介にて夫婦と
ゐるその門ゐまいりかをとつくてをるゐひとつとゐ。扶ゐ
やけれ孝行をとまりり孝貞をとんとゝけりかくて女子
うみて名むつまゝくさうえけりとなん。
◉同国香取郡弁天村の熟右衛つが娘。ゐづかに六歳な
れど孝ゐいと深かりゐ。十二歳なる婦の母ゐあゝがひ
けるをと母いうりてうたんとゐくるをにげまどひてつまづ兒
ころびけり。妹をそいゐやゝ母侍ハ婦ゐ懐子をさせんとゐ
ゐ行ゝねど天ちいまゝめたまゝなるべし。以後ハ必ん

とと改て母ひにあゝじかひたまふをとていさめけりとぞ。

同郡十六名れ内れ西代村よ。重右衛つとて百業のことれてあり。その里れ改右衛つが教まりて。月ま四日づ孝ゝ

とりりんとそひたりしーぐ。浪よハ永く悪業ととやうて。孝

すととりりんことれを心とせり。その父も重右衛つが百業

ととのぎみて。他ホまうつり行のるを。重右衛つ先祖と悔て

むくゝしー。深く孝ゝとつくしけり。又孝ゝしければとて。

長れ衣と禁ず。たゝ儒侍とれを恵て。農業ととゝゝ

みけり。それ浪へも父ゝをもて儒侍れ紡ととつとめて。

なりハひまをとぞつくしける。此里れ百姓つ。也弥清助。

陳慈次利平次。長七。孝ゝ。なゝもこれ儒侍の紡ととつとめ

て。孝ゝうとをいたゝしけり又百姓とりのをいりにもして

人れよれ遊ま妨べれことしてんとて。孝ゝ心とそげませ

りとなん。

同郡西代村の茂右衛つが姫まつ。浪百姓がまれ清右。久

兵衛がまれ重義。政右衛つが姫の十一歳れらくみ歳れひで。

なゝごとハじめ浪百姓なる右衛つ。九兵衛。仁兵衛。政兵衛。

弁三助。右衛つ。伊助。浪よ女つれ女。いて女。とみ女。でい女。ゑめ女。

とめ女。ちう女。くに女。せん女。すゑ女。げん女。ねつ女。ちらいづれも

孝貞れ人浪くゝして。ゆゝやけの法度とをるる者人なり

といつり。此西代村ハ水ゑつまて。あふせぐ堤あり。それ堤れ
ゑササ又ハそこなはれたりしと。文化十二年ゑ太平二百
年れ沸騰ゑむくいきゝんなめとて。男サハ人女ハ人くして
築ゑしつり。村長これと業して神酒代金ゑ出あけ
り。やがてそれ合して竹木と業とれへ。弁ゑれ橋れと
ぞれしをつくろひとゝめ。又村内に辻杭まて住来のく
れ伏ゑなへけりとなん。

◉同郡弁岩れ古屋弁。妻れげんゑもに孝貞れ志深く。
共に養母ゑよくつうへて。おとさけのはゑをとゝるゑ人な
りといへり。

◉同郡押切村れ七弁衛門ハ下男ゑ伝義といふのあり。た
心人ゑとてぐれて。去れるゑ農ゑをとゝげり。又四れゑ川
まゑれゑをとり。ゑれ人の差別ゑすゝ。ゑれゆゑめぐらゑやに
ん用て。村内をとゝゝく善化なゝんことをねがへり。或人
これを聞て。他人の四れゑすでに心くさりけゝをとこの男
かゝりとゝゝしけれども。伝義耳ゑもはいれど。これ国
郡ゑ報ゑゝんゑる。ゑれ人の四ゑゑに善化なゝんことを
ねがへりとて。いよく志をゑめけゝとなん。

◉同村れ柳屋徳次郎れ妻と合弁次村ゑうゑびむかへさ
せぬ。名をとがりゑ女といへり。孝貞れ心ふゝく父母ゑよく

つゝくてなこ二人をけりさるに夫父母まうるゝを捨て。他女を
ゆきいつちとも志らずに出いてゝ。のち父母と二人のゝとをを
もぐてこそみさとをあしくてをしけり。年へて後夫かれる
て行しに女とくるゝ。二里許へだゝれる里に流れつきて住
けり。もはや世に世てゝ父母の始めの妻なれるが夫なれ
ばかなしくやゆかぶけんゝ。これ妻と出て彼妻と妻と
かへゝくめんにそゝぐとそゝくして父母を志をつげて
に父母のてそゝがそび。動西せし不孝れるとを妻よゆ
るしかへけやゝやあるとて。いゝる詞をつゝせどもうゆひら
ざりけれバせんゝさけくゝよかをつくして祝るゝををぐ

くみてあり経へけり。父母ハ義あり。姑ハ孝貞ありとゝいべし

蒙 同村に武右衛門。母れすゝ白ををづゝひてくるゝしゝをを
げた。一ゝ日れ稚近して祈れを初けるゝそれかひありて
母れ病ゆこけりゆををんん。

蒙 同郡伏原れ里の久保や吉四郎ゝ妻。それ女ハ。父母夫に孝
貞をつくゝし。夫れ兄弟ハ人をけるゝまをくまゝりて。何
くれを心を用けりとぞ。

勧善録巻之中終